

国产口ボ使い肝切除

徳大病院、中四国で初

徳島大学病院は、国产の手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を使った肝切除に中四国で初めて成功した。国内では手術支援ロボットを使った肝切除は主に米国製の「ダビンチ」で行われ、ヒノトリは100例に満たない。ヒノトリはダビンチに比べ補助者がサポートしやすい機器の配置になつていてのが特長で、病院は今後、ヒノトリを活用していく。

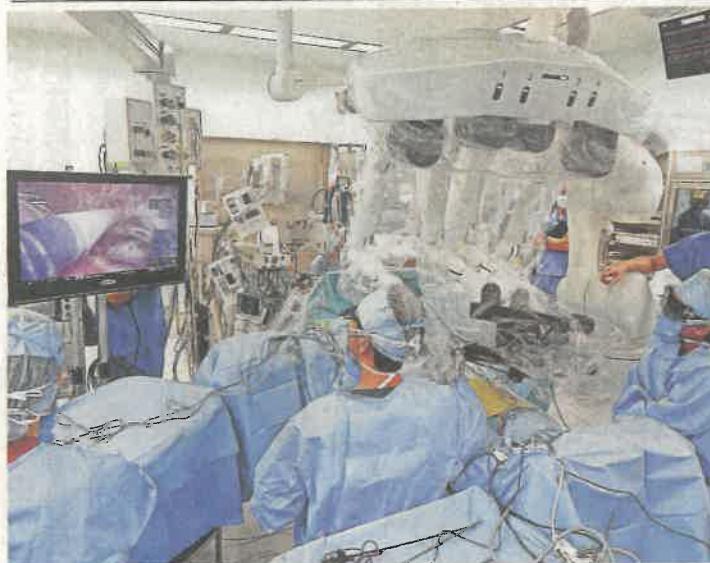
患者は過去に切除した大腸がんが肝臓に転移して再発した県内の60代男性。手術は7月26日に行われた。

腹部に直径8ミの穴を4ヵ所開け、そこから内視鏡カメラや電気メスなどの器具を体内に入れて、肝臓の左側上部7分の1程度を切除した。手術時間は開腹手術とほぼ同じ約3時間。出血量は10ミリと開腹の10分の1、

置を手伝えるメリットがある。

徳島大学病院には日本胆脾外科学会と日本内視鏡

導入で、安全で高度な医療を提供するための選択肢が増えた。ヒノトリを活用した手術を積極的に行っていただきたい」と話した。(青木忍)



ヒノトリを使った肝切除手術の様子
＝徳島大学病院（病院提供）

学会が認定するプロクター（指導医）が2人おり、全国でも人材は充実している。

今回の手術も、ともにプロクターの森根裕一医師（53）と齊藤裕医師（41）が行つた。森根医師は「ヒノトリの